

令和 6 年 第 1 回  
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和6年1月15日(月)

開会午後1時00分、閉会午後1時55分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番	坪池 宏	2番	黒田 卓	3番	大西 ゆかり
4番	村上 美也子	5番	牧田 和樹	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

理事・教育次長	水落 仁	教育次長	中崎 健志
参事・教育企画課長	福島 潔		
教育企画課課長(高校跡地活用・学校施設担当)		中家 立雄	
教育企画課課長(ICT教育推進担当)	小林 匠		
生涯学習・文化財室長	辻 ゆかり	教職員課長	板倉 由美子
教育参事・県立学校課長	番留 幸雄	小中学校課長	山尾 佳充
保健体育課長	大島 一恵		

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 報告事項

- (1) 令和6年能登半島地震に係る被害状況について(県教委所管分)  
教育企画課長から説明した。
- (2) 令和5年度富山県一般会計補正予算の専決処分について  
教育企画課長から説明した。
- (3) 第4回県立高校教育振興検討会議の開催結果について  
県立学校課長から説明した。

2 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課主幹から説明した。

3 議事

○報告事項(3)関係

〔牧田委員〕

・高校再編についてだが、今の説明の中の主な意見のところで子ども達の視点が生かされていていい内容ではないかというのがあったが、具体的に子ども達の視点というのはどういったことを子ども達の視点としてあげているのか。また、前回意見を言わせてもらったが、定員割れを起こしている学校についてなぜ定員割れを起こしているのか、メカニズムも含めて原因を一回調査して欲しいというお願いをしたのだが、調査はされていないようだ。調査されていればこの高校再編の会議に出してもらえばよかったと思う。その辺のエビデンスがあっての子ども達の視点なのかどうかは大事なことだと思うので、その辺を教えてほしい。

〔県立学校課長〕

・1点目の子どもファースト、子どもの視点は把握しているかという点については、あり方検討等に関する検討会の報告書の中でも示したが、アンケート調査をしている。2ページ目の上で少し紹介しているが、

実際は冊子として付けてそれをもとにご意見をいただいた。例えば高校選択の際に重要視することとして中学校における成績や通学条件や学科やコースの学習内容を重視して選択している。県全体の高校としては学級数が多い学校から少ない学校までバランスよくあることが望ましいといったような回答を踏まえて今回の提言をいただいている。これはその中の一部だが、いろんな観点から中学生、高校生、卒業生、保護者や企業といったところにもアンケートしており、そういったものを参考にして、さらには有識者のご意見も踏まえてこういう素案を示したものだ。2点目の欠員がなぜ起きているかの調査だが、それは確かに大変重要な点だが学校等はいろいろそれについて議論し、それに対する対策に取り組んでいる。なかなか明確な原因というところまでは手法として難しいところがある。

〔牧田委員〕

・高校再編の根源的な課題はなぜ定員割れを起こしているかというところにあると思っている。進学者から支持されていないということだ。なぜ支持されないかということ、例えば有識者などの大人の意見を聞いてもわかるわけがない。最近では中学校では偏差値である程度の指導はするが最終的に決めるのは子ども達になってきている。そういった意味ではもう少し真摯に、定員割れをなぜ起こすのか、それは学校の場所の問題なのかそれとも学科の中身なのか、そこすら把握しないで高校再編を進めようというのは本来無謀なことだと思う。まずは富山県の成長戦略のアドバイザーになっておられる安宅和人さんの本のようにイシューから始めなければならない。イシューとはなぜ定員割れを起こしているかという論点だ。そういったことをつまびらかにしないといつまでも高校再編の問題は解決しないし、いつの間にかまちづくりの一環が高校再編になってしまうという事態を招いてしまうのではないか。その辺をできる限り探っていただきたい。

〔教育長〕

・令和3年度からあり方の検討委員会の中でアンケートを実施している。その中で高校選択の際に重視することということでいえば、中学3年生についてはまずは成績だが、自宅からの距離や時間などの通学条件が2番目に多くなっている。その次に設置されている学科やコースの学習内容、学校の校風、イメージや伝統となっている。これはひとつの率直な考え方が示されていると思う。学習内容というのは大事で、今欠員が出ているところは周辺部の職業系の学校などが欠員が多いが、中学3年の段階で例えば工業高校などを考えたときに何々学科、何々学科と細分化されていて選ぶのが難しいのではないかなという声も聞こえてきている。何を勉強するかというのがわからない、わからないものは選べないという声も聞いている。このあたりは改革する必要があるという声を聞いている。まずは今やっている検討会議の中で聞こえている声を聴いてやっていきたいと思っている。なぜ選ばれないかという調査はなかなか難しいと思う。

〔牧田委員〕

・まず一つには、子どもたちが高校を選ぶときにどれだけの情報量と情報に対するリテラシーを持って判断をしているかという問題がある。例えば我々が高校受験をする時には中学校の先生がある意味強制的に指導をして、あなたはこの高校という風に振り分けてそれに従っていた時代だった。今はそういう時代ではなくなってきているので、子どもたちに誰がどんな影響を与えてきているのかを知ることが大事だ。子どもたちにアンケートをとればまずは成績、その次に通いやすいところというふうになると思うが、その相関が本当に定員割れしている学校としていない学校で出ているかどうかという検証が行われていない。通学距離とか通学時間を重視している子どもが本当に近いところの学校に願書を出しているかという、そうではないこともいっぱいある。そうなったときにその情報をどういう風にこちらが解釈するかという問題が出てくる。その辺の分析が大事だと思っている。

〔教育長〕

・牧田委員が仰ったように、かつてはあなたの成績ならこの高校というように、かなり強い指導が行われていた時代もあったと思う。ただ最近では中学校の先生があなたはこの高校、といったような指導は行われていないはずで、そこは主体的に自分で考えましょうという風になってきている。自由だということは主体性を問われて大変なのだが、できるだけいろんな情報を生徒も保護者も自分で集めて、いろいろ考えて判断をしている。その正確な情報を的確に伝えるという努力をしなければならない。その意味で県立高校はまだまだ頑張るべき点があると思っている。いままでの普通科、職業科、総合学科、という親世代のイメージがある。

〔牧田委員〕

・親世代のイメージが固まっている。高校再編はそれを壊すべきだと思う。たとえば親世代は富山中部高校と富山高校では富山中部高校の方が上だと思っている。だからどちらに行くかといわれると中部高校を選ぶという話になったりする。だが今の日本の教育制度は単線型になってしまったのだから、とりあえず高等教育機関まで行かなくてはいけないという前提で進んでいる。そうなったときに高校を選択するときに、既存のイメージでやったら大変なことになる。個人的な意見としては職業科はいらないと思う。単線型の教育制度であれば高等教育機関へ行くプロセスで全部普通科でいいと思う。普通科の中にいろいろなコースを作ればそれでいいと思う。ただ、職業科を残さなくてはいけないという意見もある。例えばこれは富山県の重要な産業だからこういう高校を残そうとか、それはそれでいいと思うが、その一方で高専の充実化という動きも出てきている。その中で県立学校としては何を大事にするのかということはどういったことに絡んでくると思う。その辺の視点をとばして高校再編をしようというのはおそらく無理だ。そこに切り込むかどうかというのが大きなポイントだと思う。

[教育長]

・仰るようにそういうランク付けといった価値観というのは過去のものにすべきだと思う。今回の会議でも各学科の今後の方向性ということを議論しているし、その延長線で再編ということを考えている。もちろん規模だけではなくて、各学科やコースをどうするか、どう組み合わせるとどんな学校を作るのかという発想で考えていくべきだと思う。そういう意味では牧田委員の考えとはそう違わないと思う。

[大西委員]

・県内で学科とかコースとかをバランスよく配置するということがあったらいいと思うが、今現在がバランスがいいかどうかはわからない。先生方や地域の方々の意見などあらゆる方面から総合的にみて、今の高校がバランスがいいのであれば、再編の方向はそれをベースにして考えればいいと思う。今は少し偏りがある、この地域にはこのコースが偏っているというようなことがあるならば、今あるクラスの数ではなく、バランスというものを全県的に考えていくことも必要ではないかと思う。去年質問したが、各学校がスクールポリシーを昨年春に発表されて、令和5年度版も発表されたが、設置者が定義されるスクールミッションについては定義されていく予定はあるのか。去年の総合教育会議で講義を受けたときに、こういうのが出るというふうに聞いたように思うのだが、各学校の存在意義や社会的な役割、目指すべき学校像を併記すると聞いているので、そういうものも入れるのかなと思っている。もう一点、今後の予定として書いてある県立高校教育振興フォーラムの富山会場に私も応募したのだが、各会場 150 人の定員だったと思うのだが、申込状況はどうか。2か所だけで足りたか。丁寧な説明や意見交換をするには富山と高岡だけでよかったのか。追加、例えば氷見、黒部などで近いところで聞きたいという方がおられるのではないかな。

[県立学校課長]

・今、2か所でフォーラムを開催しそれぞれ150名程度で希望があれば申し込んでいただくようにしているのだが、残念ながら定員を満たしていない状況なので、締め切ったのだが再度HPで再募集して、さらなる情報提供を市教委やマスコミ等に再度募集の周知をして応募を求めている状況だ。

・バランスについては、第1回、第2回の再編を通してそれなりにいいと思うのだが、1枚目の職業系専門学科の単独校、総合選択制の高校、文科系の高校、総合学科の設置等々のバランスには配慮して設置している。今後どんどん生徒が減っていけば、2ページ目の2番の4行に記載してあるが、現在の学校数を維持した場合多くの県立高校が小規模校となることが予想される。そうなると長期的に見れば減少に対応して再編を検討する必要がある。その再編をしていく時にバランスをしっかりと担保できるような形で進めていくことになる。

・スクールポリシーの方は各学校の校長が定めていて、ミッションの方は県で定めることになっている。ポリシーはやらなければならないが、ミッションについては各県の判断ということになっている。今のところまずは各学校の主体性に基づくもので進めているのだが、ミッションまで定めるかどうかは現時点では検討中だ。

[大西委員]

・今後は多分私立と県立で県立優先ではなく並べて選ばれることになると思うので、せっかく県立高校を選んだ生徒が県立高校で学ぶというメリットを実感、体感できるような高校になればいいと思う。

・フォーラムについては、終わった後、県民の方々から説明の場が足りなかったということがないように、是非たくさんの方々に参加してほしいと思う。

〔牧田委員〕

・スクールポリシーの話だが、これは各学校が作っていて、県教委で全部集めてリライトする作業はあるのか。

〔県立学校課長〕

・1年ごとに県教委から提出を求めて県でみている。

〔牧田委員〕

・どの学校を見てもほとんど同じことが書いてある。方向性はほぼ同じだ。本当は学校の特色というのを明確に出して差別化を図らなければいけないと思うのだが、それが基本的にはあまり表現されていない。校長が2～3年で変わるところで毎年スクールポリシーを出さなければいけないというのは無理があると思うのだが、そのあたりはどのように調整しているのか。

〔教育長〕

・教育の目標、目的というのは究極的には教育基本法ということになるのだが、そういった中でも各学校の伝統や学科構成などがそれぞれあり、取り組みの進め方などもあるので、努力してなるべくそういったものも出せるような姿勢で考えてくれているし、こちらからもアドバイスはしている。

〔牧田委員〕

・それは入学してくる子ども達のためだ。入学してくる子ども達がどれだけそれを見ているかということだ。

〔教育長〕

・見てもらって判断してもらえそうな材料であり、発信の仕方を工夫していかなければいけないと思う。そういうふうに声かけもしているところだ。

〔県立学校課長〕

・前までは夏に中学3年生がオープンハイスクールで実際に説明を聞いたり体験したりしていた。今は大体2～3校くらい中学生は回っている。先ほど保護者への認識という鋭い指摘があったが、秋には各中学校での保護者も入れた説明会に学校側が各中学校をまわって、ポリシーを含めた高校の取り組み、本校ならではの具体的な魅力を丁寧に説明している。さらに最近では高校生が中学校へ行って実際のものづくりを体験させたり、オープンハイスクールとは別に学校の方で体験学習を取り入れたりして魅力発信している。また最近HPの充実、学校紹介の動画を各学校で作ってアップしたり、今年からは探究活動に指定されているところでは探究活動の動画の発信も始めたところだ。アンケートで中学生にどういったところで選んだかを聞くと、意外とHPをよく見ているということもあり、そういったところの発信に力を入れている。まだまだ足りないと思うので、もっと方法を検討しながらやっていきたい。

〔牧田委員〕

・高校の魅力とは？

〔教育長〕

・特色というのも突き詰めて考えると難しい。そうそう違うということはない。

〔牧田委員〕

・私の意見だが、スクールポリシーはないほうが良いと思う。必要ないと思う。単線型の教育制度の中での高校の位置づけというのは決まってしまう。複線型であれば高校でこんな力を身につけて社会に出ようとか、こんな学びをしたから進学しようとかいう選択肢がいくつかあるが、単線型では線路が1本しかない。その中では高校のスクールポリシーがどうかということではない。先ほど大西委員が言ったように、これからは県立高校だけが高校ではないので、東京から私立の大型の中高一貫校がきた時に、どうやって共存していくのか、そんなことも視野に入れてほしい。

〔教育長〕

・公立は進学実績に特化した私学とは違うので、富山の県立高校とすれば、いろんな生徒に学んでもらって自立していってもらい、進学もあれば就職もあればその中間もある、いろんなスタイルがありうると思う。いろんな生徒に対してこんな働きかけができます、ということを経験していくというのが県立高校のスクールポリシーとしてはありうると思う。今の県立高校の中でもそういったことを意識して設定しているものもある。

〔牧田委員〕

- ・その3点のカテゴリーを普通科で推すのが高校の魅力だ。

〔教育長〕

- ・どういう発信の仕方をするのかというところが、難しい。

〔牧田委員〕

- ・現実を直視しないと、子ども達がかawaiiそうだ。行きたくない高校に行って3年間過ごして、次にどうするかといったときに、大学に行けない、どこにも行けなくなったら専門学校に行くしかないといった、高校3年間を無為に過ごすことになる子ども達が現実にいる。公的な高校であればあるほど、そういった子ども達に手を差し伸べて、もうひと頑張りできるような学校であるべきだ。高校の魅力は何かと先ほど聞いたが、そういったところの魅力をきちんと整理しておかないと、規模だけとか場所だけとかでやっていくと、最後まで子ども達の支持は得られない。高校再編の場ではないので言っても駄目なのかもしれないが。

〔村上委員〕

- ・今仰ったように定員割れしているところというのは、結果も見えにくいし、残念ながら特色とかも厳しいところがあるのかもしれない。そんな中で県立高校であるかぎり子ども達自身が変えられる可能性やチャンスはあって、スクールポリシーよりも、どこにどんな風な未来があるかという、数字など見やすいもので判断するしかない。

〔坪池委員〕

- ・国の会議の内容を見ていると、学ぶ側の立場、生徒や保護者の立場であったり、産業界の立場であったりすることが多いが、教育を提供する側はどうするのかということと合わせて考える必要があると思う。各高校では科目をどうするかということで現在の枠組みで新たな挑戦をしている学校もあるし、もう少し進むとコースの設置というところ、それから再編のところで行くと新しい学校の設置というところもあるし、生徒が減っているときには難しいが、新しく学校を作るという選択もあると思う。いずれにしてもいろんな魅力的な教育課程は作れたとしても、そこにどれくらいの人が集まるかということが公立の場合はとても重要なファクターだと思う。牧田委員が仰ったように、なぜ定員割れを起こしているかという原因をある程度考えなくてはいけないと思うが、定員割れしている学校に入ってきている子は従来通りやりたいということで入ってきているわけなので、そこを選ばなかった子ども達になぜ選ばなかったのかを聞かないと、難しいと思う。まして、募集定員が1クラスということだとかなり難しいと思う。ただ、ダイナミックにどういうタイプの学校が定員割れしやすいとか、そういう話はある程度できると思う。その動きを誰に聞くかというときには、中学校の進路指導が何年か前とどんな傾向に変わったかという聞き取りぐらいしかできないのではないかと思う。いずれにしてもなぜ人が来ないのか、あるいは新しい学校の取り組みをするときにどのくらいの人に来てくれるのか、公立としての学校が成り立つか成り立たないかという縦横の関係で見ていく必要があると思う。いずれにしても選択幅を広げるという表現がいくつもあがるが、少子化の中でその作業は相当苦しいのではないかと思う。

- ・災害に関して、一次避難所というのは小学校や中学校になっているのではないかと思うが、建物の状況を聞くと、近いところに流れて来る。県立であろうが私立であろうが入ってくる。その時に教職員が動員されて世話をしている。短期間であればそれでいいが、長期にわたると教員が疲弊してしまうということがある。長期の場合は集まって避難してきた人たちに役割分担をして、自治組織をそこで作ることが大事だということを知ったことがある。県立高校で避難してきた人たちが長期にわたるという前提でそのあたりの見直し、検討が必要だと思う。

〔教育長〕

- ・避難所については県立高校でも、例えば氷見高校などでも、高台にあるということで早くからたくさんの方が避難してきていた。地震当日は管理職の方やたまたま居合わせていた生徒も協力してくれて避難所の設営をやってくれたと聞いている。富山県内の場合は石川県に比べればまだ損害が大きくなかったので、学校が始まる前にはおおかた学校を避難所から解除できたが、長引く場合の対応を考えておく必要があると思う。他県の災害の例でも避難所になることで先生方の負担が非常に長く続いたというケースも聞いている。そういう先生方をサポートする組織を立ち上げて他県に派遣します、という組織もできてきているようだが、そ

ういったことを想定した備えが必要だろう。

〔黒田委員〕

- ・震災の話だが、坪池委員が仰るとおり学校が一次避難所になることは仕方がないと思う。どうやって避難所を解除してくのかということをちゃんと考えていかなければいけないと思う。
- ・再編の話だが、本県の場合ほとんどの学校が小規模校になってしまって、その場合小規模校でも運営が可能な方法と小規模校のメリットを最大限に活かすということになっているが、現実的に小規模校の運営のところどこまでが可能なのか。特にコスト面なども含めて審議しているようだが、カリキュラムはある程度工夫をして限定して運用するというでなんとかできるかもしれないが、結局のところ生徒の選択の幅、学べる内容の幅を狭めてしまうことになりかねない。学校の規模にかかわらず学校がやるべきことというのはほぼ同じような数があって、少ない職員数でまわせるのかということもある。中・大規模校だけではなく小規模校というのを入れておかないと、というのはわかるのだが、現実問題として高校レベルで小規模校というのは非常に難しいのではないか。例えば小学校だったら1人の担任の先生が複数の教科を教えたりするのでもいいが、高校での学びということ考えた場合は難しいと思う。また、単に授業で学ぶというだけではなく、友達同士の関わり合いの中で学びが成立していくということもあると思う。ある程度共通理解を図っていただいて、小規模校を残すとメリットもあるがコストもかかるとか、小さな学校でもこのくらい必要だということを数字で見えるような形にしたほうが議論が進みやすいのではないかと思う。

午後1時55分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。